



災害への備え



災害エスノグラフィー



災害図上訓練(DIG)



応急手当等



# 赤十字防災セミナー

災害から、あなたと周知の人々のいのちを守るように、  
「赤十字防災セミナー」に参加してみませんか？

**対象** 町内会・自治会から小学校区程度までを範囲とし、原則として一般成人の方

**会場** 地域のコミュニティセンター、公民館、学校体育館等

**内容** 「災害への備え」「災害エスノグラフィー」「災害図上訓練(DIG)」「応急手当等」から必要なものを選択・組み合わせることが可能

## 「自助」と「共助」の力を高め、人々のいのちを守りたい

日本赤十字社は、赤十字防災セミナーを通じて、地域コミュニティにおける「自助」と「共助」の力を高めることで、地域の住民の方々が自ら、災害からのいのちを守り、被災に伴う心身の苦痛を軽減することを目指します。

### 今後発生が予測される大規模災害に対して

例えば・・・

	南海トラフ地震	首都直下地震
今後30年以内の発生確率	約38年(2016年)に発生した熊本地震の発生確率に発生時までは、ほぼ0~0.9%でした。 2週間以上続くことがわかりません。	
最大想定死者数	最大32万3千人	最大2万3千人

内閣府資料、中央防災会議資料、地震調査委員会報告書等による

### 赤十字防災セミナーの目的

- 1 災害への備え  
災害・防災についての考え方や地震・大雨災害など災害別の想定被害等から、平時の備えの重要性を理解する。
- 2 災害エスノグラフィー  
大規模災害の被災者の経験談を通じて、災害を体験することで被災の具体的なイメージを理解する。
- 3 災害図上訓練(DIG: Disaster Imagination Game)  
地域の防災マップの作成を通じて、防災上の資源や危険箇所等を把握・理解し、個人や地域での防災対策の実施につなげる。
- 4 応急手当等  
身近なものを用いた応急手当(搬送含む)をはじめ、一次救命処置(心肺蘇生、AEDを用いた除細動)等を学ぶ。

※今後も最新カリキュラムの編成を予定しています。

必要なカリキュラムを選択・組み合わせることで実施

地域住民の  
防災・減災に関する  
知識・意識・技術の  
普及向上

地域における  
災害発生時の  
応急対応にあたる  
リーダー層の育成



### Q 日本赤十字社がなぜ地域住民の防災教育を？

A これまで日本赤十字社は、長年に渡り救護活動の経験を蓄積してきました。各自治体が実施する防災対策と連携しながら、赤十字のノウハウを活用して、全国に約30万近く存在する地縁団体(自治会、町内会)のレベルから、地域の「自助」と「共助」の力をさらに高められるようサポートします。



赤十字防災セミナーに関するお問い合わせは  
日本赤十字社各都道府県支部まで



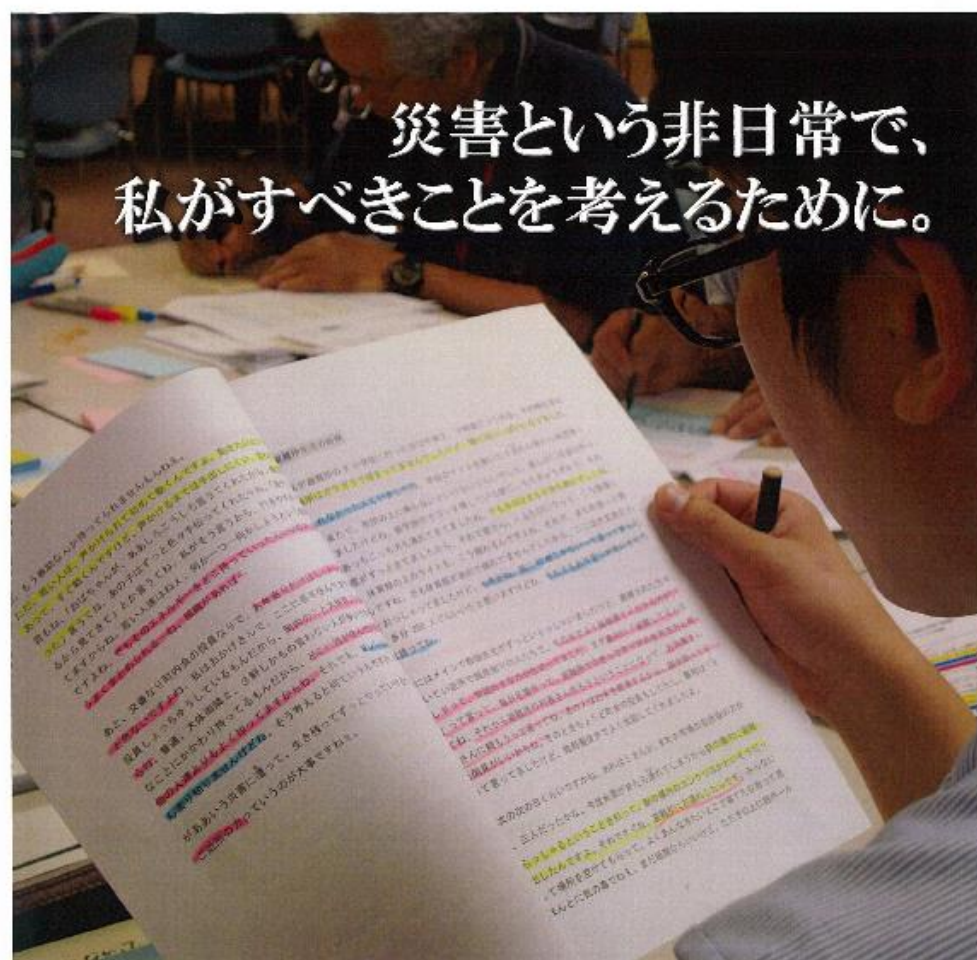
自分のいのちと、地域を守るために。

(写真提供:神戸市)

赤十字防災セミナー

## 災害への備え

防災や減災の考え方、地震・津波・風水害がもたらす様々な被害から、平時の備えの重要性を理解する。



災害という非日常で、  
私がすべきことを考えるために。

赤十字防災セミナー

## 災害エスノグラフィー

被災した人々の視点で書き留められた読み物から、  
災害を追体験し、被災状況をイメージする。



災害を知り、  
地域を知り、  
人を知るために。

赤十字防災セミナー

## 災害図上訓練(DIG)

地域の防災マップの作成を通じ、防災上の資源や危険性を把握し、個人や地域の防災意識を高める。

※DIG: Disaster Imagination Game



自分のために、  
家族のために、  
地域のために。

赤十字防災セミナー

## 応急手当

身近なものを用いた応急手当をはじめ、一次救命処置(心肺蘇生、AEDを用いた除細動等)を学ぶ。

## 地域力の大切さを思い知らされた！

災害が起こった時どうなるのか。  
必要なことは何か。  
具体的に感じる事ができた。

自分の周りのことについて考え直す良い機会だった。

## 紙面でも、 危険な場所や地域のことを考えられた。

まず自身の安全。  
次に救助へ。  
それが間違いないものだと思った。

思い切ってリーダーとして引っ張っていく  
必要があると思いました。

## 皆が同じ危機感を持っていることが分かった。

—赤十字防災セミナーを受講した皆様から—